

琉球大学学術リポジトリ

化繊の取り扱いについて

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 外間, 千代 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19587

向は主風の方向にたいして直角に設けるのが普通であるが、台風やその他種々の変化する風にたいして備へる必要上、東西および南北の両方向に設置した方がすべての方向からの風害を防ぐことができる。

林帯の厚さ(巾)はすでに述べたように内陸における防風林では一〇米以上とし、海岸防風林では風速大なる海風に備え、また海風で運ばれる塩分の害を防ぐためにも林帯の厚さ(巾)は四〇米以上を必要とするものと考えられる。

また、林型も防風機能を十分に發揮させるために三角型の林型(五図A)を避け、五図Bのような短形型にしなければならぬ。

広大な原野などにあつては、地形やその他の情況に応じて適当に林帯を設け、林帯間には防風垣すばわい林型防風林を設けることによつて一層防風機能を完備ならしめることができる。

防風林造成用の樹種は次のような条件を具へているものがよい。

- 1 気候風土に適すると共に、所在地の局部的な環境にもよく適するもの
- 2 風害にたいして抵抗力大なるもの
- 3 生長がはやく、喬木に生長し且寿命の長いもの
- 4 枝下高が低く樹冠部が密に発達し、樹体はきわめて弾力性を有するもの
- 5 深根性樹種で耐旱性が大きく共に、耐病性、耐虫性も大であるもの
- 6 造林が容易で、利用価値の大なるもの

以上の条件を具へているものが理想的な樹種であります。防風機能を發揮しようとする特徴のある樹種を選ぶことが大切であります。

琉球における防風林造成用樹としては琉球松、木麻黄、フクギ、テリハボク、相思樹、イヌマキ、クスノキ、イシヅウ、オキナハジイなどが考えられます。

要するに海岸防風林造成用には、塩害にたいして抵抗力の強

い琉球松、木麻黄、フクギ、テリハボクなどがよく、内陸における防風林ではそれに加えて相思樹、イヌマキ、クスノキ、イシヅウ、オキナハジイなどが良いと思われれます。

防風林は、諸害にたいして最も安全を保つことが大切でありますから、単純林にしないで針葉樹と広葉樹の混交林に仕立てることが必要です。即ち、木麻黄とイヌマキを混植するとか木麻黄、相思樹にフクギ、テリハボクを混植するなど二―三樹種を混植する方が良いと思われれます。また、樹齢部から林内に風の吹き込りを防ぐために、樹下にサンゴジュやアダンなどを植えることは防風効果を高めるのに役立ちます。

また防風林内における林木の間隔は密である方が望ましく植栽にあつては初期の枯損にたいして余裕あらしめ、また巨く樹冠をもつ閉させて雑草の繁茂を防ぎ、林木相互の保護をはかり林帯全体が一つの厚い防風壁となるようにすることが大切であります。そのため一米―一、五米位の間隔で三角形に植栽を行ない、逐次間伐しながら樹齢が大きく樹冠のよく発達した樹木に育てることが大切です。また林縁木は一般に枝下高が低いのが普通であります。林内に風の吹き込みを少なくするために枝間伐をさけて枝下高をできるだけ低くするようにすることは大切なことでもあります。

化繊の取り扱いについて

先月号では化繊の性質とその用途についてのべましたので、今月はその取り扱い方についてべましょう。化繊といつてもいろいろな種類がありますが、性質もそれぞれ異つてをりますので、その性質に応じた処置が肝要です。

▲ビスコース・レーヨン(人絹、ス・フ)

洗濯

洗剤と洗い方―洗剤は自質の石鹼または合成洗剤(中性洗剤

(六)むすび

琉球では主要作物である甘蔗、水稻、甘藷、バナナ、パイナップルなども防風林を造成して風害を防ぐことにより、大いに増収が期待される。また、作物栽培にたいする安全性を確保し農家経済を一層豊かにすることができると思われれます。

秋田、木曾、吉野など若くは美林が存在する処はいずれも風の少ない処であり、また、優良なる竹材の生産地である京都は、山城国といわれ周囲が山で開れているため風が弱く、そのため柔軟で強靱な長い竹材が生産されるといわれています。

このように風は、農作物だけでなく森林にたいしても非常に影響するのであります。季節風地帯にあり、また台風の影響にあつては、農作物の栽培、造林、竹林造成、人家の保護上からも防風林の造成は極めて重要な責務をもつものと思われれます。災害は忘れられた頃に來るとかいう諺があります。琉球では年々台風が訪れ莫大な損害を与えています。台風による損害を防ぎ、植物に与える目に見えない常風の害を防ぐためにも、防風林の造成は極めて緊急を要する問題だと思われれます。(終) (諸見里 季 寧)

縫製

人絹、ス・フ製品は最近樹脂加工その他の防皺防、糊加工をしたものが多いので、これらは樹脂にとりかゝる前の地詰めが必要はないのです。綿むし配のある場合は一たん水に通して充分乾かした後摄氏二二〇度―一六〇度位の温度でアイロンをかけます。縫糸は絹よりも木綿の方を使つて下さい。

を選びましょう。用量は汚れの状態で加減しますが、○・三ノ五%が適当です。(水二立に対し洗剤茶匙一杯 洗ひ方は、高温で扱つたり、もんだり、こすつたり、ねじつたりしないようにすることです。ふり洗いか、刷毛洗ひをします。

汚れてしまわぬ中に早めに洗うことが大切です。伸びやすい編物類はとくに干すとき注意して下さい。色ものはタオルでよく水気を取つてから干すとよいでしょう。よく乾いてからアイロン仕上げを行います。

▲ベンベルグ

縫製

生地を整えるために行う地直しは樹脂加工されていらないものと樹脂加工されたものによつて仕方干して下さい。樹脂加工してないものは仕立後洗濯をした場合などにサイズにいろいろ来ますので、水に浸して地詰めをし、陰干しにして乾いた時裏からアイロンをかけて地直しするのです。水に浸す時間は五〜六時間位にしますが急ぐ場合は、ぬるま湯に三〜四時間位浸します。樹脂加工をしてあるものは、地直しをする必要はなく、裏側から乾くアイロンをかける程度でよいのです。

洗濯

洗剤と洗ひ方―洗剤は良質の石鹼または合成洗剤(中性洗剤)が適当です。洗剤の用量は人絹やスフの場合と同じです。洗ひ方の注意点は、摩擦に強い繊維ではないのですから無暗にこすつたり、もんだりすれば地質を弱めます。洗剤を溶かした液中に浸して十分位してからふり洗い、または汚れのひどいところだけ刷毛洗ひにします。ねじり絞りはさけて、軽く扇だゝみに折れたゝんで水気を切ります。洗うときの用水の温度は常温でもよく、温度をあげたいときはぬるま湯程度を用います。注意点は、人絹やス・フも同様ですが、ぬれた状態で強い刀を加えないこと、熱湯を用いないこと、洗剤の良質のものを適量用いること、手早く行うことが肝要です。

漂白剤と漂白剤・晒粉○・五%溶液に晒粉の重量の二、五倍の洗濯ソーダを少量の水にとかしたものを加えて、その上澄液を用います。

▲アセテート

縫製

ビスコース・レーヨンと同様の注意を払えばよいのです。

洗濯

洗剤と洗ひ方―洗剤は良質の石鹼、または合成洗剤を用います。用量は、○、三ノ〇、五%冷液でよいのですが、温液の場合は微温湯を用い、洗ひ方はふり洗いを主とし特別汚れているところは刷毛洗ひが適当です。織味を損ぬようしばつたりもみ洗ひすることはさけて下さい。

特殊なシミを抜くときは、アセトン、シンナー類、濃い醋酸には溶けてしまうので使用しないように注意して下さい。脂肪性の汚れは良質のベンジンを使用してとり除いて下さい。漂白剤と漂白剤―白物を漂白したいときは次亜塩素酸ソーダ液を準備して漂白するのです。用水は普通の水で、温度を加えないのが常識です。

干し方と仕上げ法―直射日光をさけて、日かげに干すことが大切です。アイロンで仕上げを行う場合は低温で裏から、別布をあてた上からかけることが大切です。

保存

虫、カビの心配はないので防虫剤などは不要です。汚れはきれいに落して形を整えておき湿気をうけないように保存します。

▲ビニロン

縫製

熱に弱いため、地直し、仕上げのアイロンの温度に注意します切り端がほつれやすいので、地合の厚薄、柔軟、粗密などによつて適切な処置をします。

洗濯

洗剤と洗ひ方―洗剤は良質の石鹼、または、合成洗剤を用います。用水は水の方がよいのですが、温度を加えるときは摂氏三〇〜三五度(お風呂は摂氏四二〜四三度位)が適当です。熱湯に入れたり、熱湯をそゝいだりしてはいけません。ぬれ

た状態で力を加えると地質が弱るので、強くねじつたり、もみ洗ひをさけるように注意して下さい。

漂白剤と漂白剤―白物は次亜塩素酸ソーダ液(晒粉○・五%溶液に晒粉の重量の二・五倍量の洗濯ソーダをとかし、よくかき混ぜてその上澄液を用います。

干し方と仕上げ―洗濯してきれいになつたものは風通しのよい日かげに干し、形のくずれないように注意します。アイロン仕上げはよく乾いてから低い温度でゆるやかにかけ、きりふきぬれた布をあてる必要はないのです。

保存

虫害、カビに対する対策は必要ないので、保存に際しては湿気のないところにしよう注意して下さい。(つづく)

(外間 千代)

あとがき

先月の台風エマは未曾の大きなものだったと言はれ、特に本島の中南部における家屋、農作物、家畜、その他の被害は極めて大きなものでありました。誌上にてお見舞い申し上げます。

本学部の夏の普及事業として、八重山、宮古、久米島等の各所で病害出展示会、料理講習会、畜産講習会を開きました。所定の官庁や学校及び一般の大きな御支援に頼り所期の目的を達成することが出来ました。深く感謝申し上げます。

発行所 琉球大学農家政学部

発行人 島袋 俊一

印刷所 沖繩タイムス社